

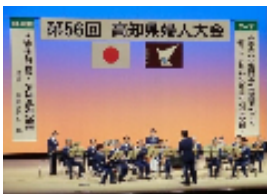
## 第56回 高知県婦人大会より

去る、11月29日(火曜日)高知県民文化ホールにおいて、第56回高知県婦人大会が開催されました。

開会行事のあと、高知県金融広報委員会長の野原強さんより「高知県経済の活性化に向けて」と題した講演がありました。高知県のGNPは全国でも下位にあるが、GNH（Gross National Happiness・国民総幸福感）も低位である。これを引き上げるためには、昔ながらの地域コミュニティの再構築が大切であること、またその原動力となるのは「はちきん」と呼ばれる高知の婦人会のみなさんの力であるという話を現在の経済状況などをまじえながらお話していただきました。

そのあとの高知県警察音楽隊による演奏では、懐かしい曲やアニメソングが選曲されていて、参加者の皆さんも口ずさんだり、手拍子をしたりと大変盛り上がりました。

昼食後はこの婦人大会のお楽しみでもある、各ブロックからのアトラクションです。今年ブレイクした「マル・マル・モリ・モリ」や「AKB48」など、どのブロックも趣向を凝らした出し物で、食後のひとときを楽しく過ごされていました。



午後の幕開けは、幡多地区連合婦人会長の柿部佐多香さんが「地域の和は資金づくり活動から」と題して体験発表をしていただきました。

最後に、「人生を楽しむ秘訣～心と体と財布の健康」を演題にタレントの生島ヒロシさんの講演がありました。ここからは一般の方も入場され、ホールがいっぱいになりました。

生島さんは東日本大震災でふるさとの宮城県気仙沼市に住んでいた妹さんを亡くし、妹さんのご主人はいまだに安否確認ができていないとのことでした。それでも、まずは健康が第一と明るくお話を始めてくれました。

ヘルスケア・アドバイザーでもある生島さんは、スクワットや、指回し、ひとりジャンケンなどで体をほぐしながら、脳梗塞予防など健康に役立つお話を続けられました。そして歯のケアも大切なことなどを客席に問いかけながらお話しされ、参加したみなさんも納得されたようでした。

ファイナンシャル・プランナー、金融知カインストラクターの資格も持つ生島さんは、現在の日本が置かれている経済状況や年金などは、どれもきびしい状況であり、それを乗り切るためにはまず健康であること、そして持たなくてはならない力として、まねる力（学ぶ力）、段取り力、コミュニケーション力が大切であると言っていました。

これらは、今求められる子どもたちの「生きる力」を育むことにつながるのではないかと思います。また、子どもだけでなく、私たち大人もこの「生きる力」をつけることをめざし、子どもたちと共に勉強し続けていく姿勢を持ち、頑張っていきたいと思います。